

理数コース3年生 校外実習 アクア・トトぎふ訪問

11月12日(水)

午前は、アクア・トトぎふ館内を自由に見学しました。魚の餌やり体験をしている生徒や、カワウソがかわいいとずっと観察している生徒、アクアトトの飼育員さんによる説明を熱心に聞いている生徒など、それぞれの楽しみ方で午前の施設見学を終えました。

午後は、魚類の体の秘密を探るべく、いよいよ解剖実習です。ワクワクしていたり、恐る恐るな様子であったり、みんながドキドキしていました。実際に解剖させていただいた魚は「アマゴ」でした。

館員の方から解剖の目的、注意点について説明をしていただきながら、実習スタート！生徒たちは1人1匹ずつ作業を行い、初めは緊張した様子でしたが、実際に手を動かすことで次第に自信を持ち、積極的に質問をしながら学んでいました。実習の中では、魚の外部構造、鰓の働きや内部構造、内臓の配置を観察し、それぞれの器官がどのように機能しているのかを学びました。上手く解剖できた生徒は、さらに眼と脳まで観察することができました。浮袋の摘出が上手くいって歓喜をしていたり、きれいに解剖できたものをお互いに見せ合ったり、積極的に参加していました。直接目で見ることで理解が深まり、解剖後には、各々観察した結果をスケッチしたり、言葉でまとめたりして解剖を無事やり切ることができました！



↑生徒たちの様子



↑解剖して鰓や内臓が観察しやすくなっているアマゴ
(白子=精巣があったため、この個体はオス)

～生徒の感想(抜粋)～

- ・世界に目を向けると、「本当に水の中に住んでいるのか!？」と言うほど大きい魚がおり驚いた。また、景色と同系色になり身を隠している生物もあり、生存競争を生き抜くための知恵がよく分かった。
- ・長良川の上流、中流、下流と場所により、生息する生き物の大きさや見た目が大きく異なっていることを学んだ。また、アジアに生息する生き物も同様に、生息地によって見た目に大きな違いがあった。特に目の位置や顎の形に決定的な違いが見られ、目や顎は環境の影響を大きく受けて変化する部位だと学んだ。
- ・毒を持つ海洋生物の展示で、カモノハシが爪に毒があることを知ってカモノハシにそのようなイメージがなかったので驚いた。
- ・解剖をする前は少し抵抗があったが、進めていくうちに魚の体の構造を知るのが楽しくなっていったたまごをたくさん持っていたことやその影響で臓器の一部がつぶれてしまっていたことが印象に残った。
- ・自分の解剖した魚とクラスメイトが解剖していた魚とで、臓器の大きさや形が少しずつ違って、同じ魚でも個体差がこんなにあるんだなと思いました。